

住民自治協議会だより 第3号

発行：小田切地区住民自治協議会 総務・安全防災部会

一年を振り返って

会長 齊藤 裕

昨年3月7日に「自分達の地域は自分達でつくる」という意識を持ち「小田切を元気に！」を合言葉にして、小田切地区住民自治協議会が発足してから早くも1年が経過いたしました。その間、地区の特性や実情にあった取組みを考え、様々な事業を実施してまいりましたので、その中の1つを紹介いたします。

当地区は地理的条件が悪い起伏のはげしい山間地域であります。比較的市街地に近いことなどから、人口も年々減少し少子高齢化が急速に進んでおり、地域の活性化とともにマイカーを持たない高齢者世帯の交通手段の確保が大きな課題になっております。

そのような中、昨年行われた衆議院議員選挙から下宮野尾公民館及び下小鍋公会堂の投票所が廃止になったこともあり、「期日前投票支援事業」を実施いたしました。この事業は、投票所へ行くことが困難な住民を、期日前投票所である小田切公民館までジャンボタクシー等で送迎をするもので、衆議院議員及び市長選挙時に実施し、利用者からも大変好評を得ることができました。

最後に、平成22年度から都市内分権が本格的にスタートいたしますが、皆様方ひとりひとりが「安全・安心・安住のさと小田切」になるよう、知恵を出し合い真剣に考えていくことが重要であります。住民自治協議会といたしましても、皆様方からご意見をいただき、元気な小田切地区になるよう積極的に取り組んでまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



この4月から長野青年会議所の長野ブランドづくり委員会（塩沢豪委員長）が主宰して、信州里山塾が小田切をメインにして若穂、山新田で行われます。小田切では住民自治協議会環境・地域活性化部会（竹内重雄部会長）の小田切遊休農地活性化委員会（上野修会長）が受入れの窓口になり、農作業の指導に当たります。

里山塾は農業の大切さを学び郷土愛を育てることを目的に地産地消を図り中山間地の活性化につなげたいとして、小田切地区田中で水稻、小野平で馬鈴薯と大根、山新田では甘藷を栽培します。

塾生は小学校高学年（4～6年生）とその保護者で20組（40人）です。募集方法は3月1日付の「広報ながの」で行われたほか、市内各小学校でも行われました。

募集の締切は3月17日

22日には参加者が決定します。平成9年小田切小学校が廃校になって以来、子供たちは減少の一途を辿り、喚声すら聞こえない状況になっています。久しぶりに子供たちの元気な声がこだましそうです。

作業日程は、4月馬鈴薯の植え付けで始まり、5月は田植え、11月は大根の収穫となっています。月1回の予定で草取り、土寄せなどの作業や稲刈り、

脱穀も体験します。このほか、山の下草刈り、富士の塔登山、自分たちでつくった馬鈴薯を使ってのカレーライス、飯ごう炊飯なども計画されています。

指導は上野会長、宮尾壽副会長、宮尾忠二顧問、宮尾照久委員、宮尾正明委員、酒井美明委員、酒井昌之相談役があたります。

親子による農業体験はマスコミも注目しており、小田切が紙面やテレビに登場すると思います。皆様のご協力をお願いいたします。

親子で農業体験

小田切で！

農業委員 酒井昌之





総務・安全防災部会

今年度の取組みについて

総務・安全防災部会長 竹内弘司

2009年3月7日に小田切地区住民自治協議会設立趣意書にある「自分達の地域は自分達でつくる」という、基本的な理念に則って住民自治協議会が設立し、「安全・安心・安住のさと小田切」を合言葉に、各部会を中心に活動方針に沿って事業を実施してまいりました。総務・安全防災部会の主な取組みについては次のとおりです。

1 中山間地域自治活動支援モデル事業

高齢化や過疎化の進展に伴い住民自治活動をはじめ、日常生活に支障をきたしている中山間地域に対して、地域の互助機能の拡大を図る事を目的とした支援活動です。昨年の4月に小田切地区に長野市から地域活性化アドバイザーが派遣され、各地域の特性に応じ住民自治協議会と一体となって活動していただきました。各地区の生活支援員により、草刈、除雪、アレチウリの駆除等の作業を地区ごとに実施

いたしました。

また、福祉自動車運転協力員さんにも、若干の補助を行いました。

2 地域安全対策の推進

交通については、近年高齢者の交通事故が多発しており事故件数全体の50%以上が高齢者ですので、8月25日に改善センターに於いて高齢者向けの交通安全教室を開催し大勢の方に参加していただきました。

災害時要援護者支援体制については、各関係機関と連携を図りながら住民の協力を得て一人暮らしの高齢者及び障害者など自分一人では避難が出来ない人もいることから、こうした方々を災害から救う為に、地域の皆さんの支え合いによる避難支援体制づくりを平成22年度には更に深めて取り組んでまいりたいと考えています。

3 広報誌発行

皆さんのご協力をいただき、住民自治協議会だより第2号、第3号を発行する事が出来ましたのでお礼申し上げます。

福祉・健康部会

平成21年から22年体制へ

福祉・健康部会長 山上健一

去る3月5日、本年喜寿を迎えられた皆さんをお迎えして、御祝いの会を開催しました。今年の喜寿対象者は前年より20名増の39名でした。中には共に喜寿を喜びあう3組の御夫婦がありました。

又、諸般の事情で参加出来ない人もおりましたが、近年来最大の21名が百景苑に集い、徳永昭治さんが代表で喜びの挨拶をされました。

この喜寿の祝いを最後に昭和27年以来「社協」の呼称で地区内に深く根付き続いて来た、小田切地区社会福祉協議会が解散されます。

新年度からは社協が実施して来た事業を継承する組織として、小田切11区から推薦される福祉委員を中心とする社会福祉委員会を設置します。

社会福祉委員会は福祉・健康部会に所属し、民生児童委員協議会、保健指導員会、老人クラブ及び遺族会小田切支部と協働します。

地区内では高齢者世帯と、一人暮らし老人の増加が一段と増え、一部では日常の生活環境の維持さえままならない状況となって来ました。

この様な地区状況の把握と、お互いに何をどの様にして支え合える事が出来るのか、課題を探究し対処法を住民自治協議会に提言する為に、市内20地区では既に進められている地域福祉活動計画策定委員会を立ち上げました。

計画推進の為、昨年4月に小田切地区社協内に専属職員（ワーカー）を配置しました。そのような中、昨年9月に21名から成る策定委員会が発足し、同時に作業部会を設置し、本年1月には全世帯対象のアンケート調査を実施したところです。

現在アンケートの集計分析を進めていますが、関係団体の指導と先進地区の取り組みを参考に、小田切としての共生の可能性を探究していきます。



今年度の活動報告及び 次年度に向けて

環境・地域活性化部会長 竹内重雄

小田切地区住民自治協議会が発足して早1年を迎えようとしています。本部会も事業計画に基づき様々な事業を実施してまいりました。

環境美化連合会では、地区内でのごみの減量化、分別収集を目的としての啓発活動の実施や昨年10月1日からスタートした「家庭ごみ有料化制度」に伴い、不法投棄のしやすい場所に不法投棄防止看板の設置やネット張り等を行いました。また、各区で行う道路清掃時に空き缶、ペットボトル等のポイ捨てごみの回収を行ったり河川、水路等の不法投棄等のパトロールを実施いたしました。

観光協会では、小田切地区西の玄関口である保玉地

籍に、長年の要望でありました立派な観光案内板を設置することが出来ました。一人でも大勢の皆さんが小田切八景などを見学に来れる事を願っています。

また、次年度に向けての取組みとして遊休農地活性化委員会では、地区の高齢化が進み荒廃地が増える中、酒井農業委員さんを中心に長野青年会議所の皆さんの協力で信州里山塾を立ち上げる予定です。長野市内より小学生高学年20名保護者20名の合計40名が参加して小野平、田中地籍で種まきから収集まで体験していただきます。この事業が小田切地区の活性化につながり国内食料自給率が少しでも上がればと願っています。



小田切の歴史と文化を 伝えるふるさとの館

教育・文化部会長 池田光揮

平成21年6月17日、21年度総会を開催し、事業計画、予算等が承認され「住民自治協議会」が名実共に活動開始となりました。

当教育・文化部会は9団体で構成されており、部会予算10万円の用途については部会で検討した結果、全会一致で「小田切歴史民俗資料館（略称）」のパンフレット作成が決定となりました。10月には有識者専門委員の皆さん方の協力を得て、生活、生業、生産、消防（平成18年開設）等特色ある七つの間ごとに展示品、農機具類の写真撮影をいたしました。特に藁仕事、囲炉裏を囲んでの団欒、「伝統行事・文化の間」では「獅子舞い」の場面を再現してみました。

11月に「編集作成委員会」を開催し、『私たちの展示室と記念館の生い立ち』の紹介では、小田切教育の沿革、平成13年5月開館に至るまでの経緯について有識者専門委員が執筆担当いたしました。

12月におかげさまで印刷3,000部が完成、1月には全戸配布の運びとなりました。

平成10年3月末に「長野市立小田切中学校」が閉校して早や12年の歳月が過ぎようとしている現在、かつて小田切教育のシンボルだった学び舎は今甦り『小田切の歴史と文化を伝えるふるさとの館』として極めて重要な役割を果たしております。このことは小田切地区住民の総力であり、今まで貴重な展示品、資料を寄贈された地区の皆様、パンフレット作成にご尽力の方々に改めて感謝と御礼を申し上げます。

これからは、小田切公民館、小田切支所、青少年錬成センター等と連携しながら、見学者の受け入れに努めることが課題だと思います。

終わりに皆様のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。



地区の人口流出はとどまらず慢性的な担い手不足による過疎化、急速な高齢化の進行、集落機能の低下など生活や農業面の条件が厳しい中山間地域の活性化を図るため、地域において必要な取り組みを行なうことを目的に市内11地区に地域活性化アドバイザーが昨年4月新たに配置され、小田切地区を担当することになりました。

当初何をやるのか、何をやっていけば良いのか、わからず手探り模索の日々でした。1年を経過する中で地区の現状・課題、取り組んできたこと等を振り返って見たいと思います。



今年度の主な活動として

- ・集落点検活動（集落点検マップの作成）
- ・地域資源の洗い出し
- ・やまざと支援交付金（旧モデル事業）の地域の皆さんへの事業周知、計画策定、申請
- ・「中山間地域自治活動支援モデル事業」の実施、報告の取りまとめ等の事務全般
- ・不法投棄パトロール、投棄物の回収
- ・住民自治協議会役員会、各部会、区長会等の会議に出席
- ・地域おこし活動への参加
- ・県の「地域発元気づくり支援金」、市の「地域やる気支援補助金」制度の申請について住民自治協議会役員会、区長会で説明

最初は地区の現状を知り、把握する必要があり、集落点検マップとして集落の状況を地図に記すもので、作成にあたり区長さんや役員さんの大変なご尽力をいただき、またお話を伺う中で地区が抱える様々な課題が多くあることがわかって来ました。地区の課題は皆さん方が既にご存じですので、ここでは省略いたします。

様々な課題によっては既に個人や地区の組織で対応されているものでは、地域での草刈り等の外、遊休農地活性化委員会でワラビの苗栽培、平成22年度では青年会議所とタイアップして信州里山塾の開催を予定しています。都市部の小学生の親子を対象に農作物の種まき、作付けから収穫までの農業体験をするものです。有害鳥獣対策では捕獲檻、ワナを設置し相当数の捕獲実績を有しています。また、作物の周りのトタン等の柵設置は被害防止に効果的であると聞いておりますので、お奨めします。

不法投棄防止では、投棄者に「不法投棄は犯罪」と認識させるため繰り返し啓発活動の継続、不法投棄は犯罪と記した看板を製作し、設置したらどうかと考えます。

地域を活性化するには「住んでいる地域を何とかしよう」、「元気になるには何をすれば良いのか」、地域を思い、心配している人は大勢いらっしゃいますが、地区住民の皆さんが地区の山積する課題に向かって「やる気持ち」を持つことが小田切地区にとって最も重要なことと考えます。

折しも、平成22年度から都市内分権が本格的にスタートしますが、その基本である「地域の課題は地域で解決する」ことが住民自治協議会及び地域住民に課せられ、また使命でもあります。

行動を起こす、何かをやるにも「人と資金」が必要となりますが、人については「①積極的なリーダーの育成 ②リーダーとともに行動する担い手 ③具体的な活性化策を本音で話し合い検討・議論する場（組織）づくり」

この3点が小田切地区を元気にするには是非とも必要であり、住民自治協議会での早急な体制づくりが急務と考えています。

資金については、都市内分権の本格的な始動に伴い、市の「地域いきいき運営交付金」とは別に「地域やる気支援補助金」、「やまざと支援交付金」、また県の「地域発元気づくり支援金」の制度がありますので地域の活力向上、元気な地域づくりに積極的なご利用をお願いいたします。

これらの交付金、補助金には利用目的があり、対象の適否について事前に支所、アドバイザーに相談、協議をお願いします。

地域活性化アドバイザーは、住民自治協議会に軸足を置き地域の皆さんと一緒に活性化について検討、協議、議論を繰返し、地域にできることから取り組めるよう地区と行政との橋渡し役に徹してまいりますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

編集



後記

平成22年度から長野市版都市内分権が本格的にスタートいたします。小田切地区住民自治協議会が、優先度の高い事業へ多くの資金を充てるなど、地区の実情に応じた事業計画を立てて事業を行います。

總會の内容、実施した事業等につきましては、本年度同様に「住民自治協議会だより」で皆様方にお知らせいたしますので、ご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

総務・安全防災部会 竹内 弘司